

【樹木の部屋】

ノムラモミジ (ムクロジ科カエデ属 *Acer palmatum* cv. *sanguineum*)

和名；ノムラモミジ **別名**；ノムラカエデ、ノウシ(濃紫)、武蔵野

英名；

ムクロジ目 落葉広葉樹 **原産地**； 日本

花言葉； 節制、遠慮、自制、大切な思い出

花の色；



← 写真－1 ノムラモミジ

撮影日：2012年04月25日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↓ 写真－2 ノムラモミジの葉

撮影日：2012年04月25日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



大和郡山市郊外の民家に植えられていました。

春から秋にかけて紫紅色の葉をもち、葉の時期は常に紅葉しているのが特徴です。江戸時代から知られているオオモミジ(*Acer palmatum* var. *amoenum*)系の園芸品種(イロハモミジの園芸品種とする説もあるそうです)で、寒冷地に向いています。

和名は、「濃紫(こむらさき)」が「のうむらさき」と読まれ、これが「のむら」

と省略されて、「野村」の字が充てられたそうです。また、江戸時代にはムサシノ(武蔵野)とも呼ばれたそうです。

庭木としてよく使われ、新緑の時期に他の樹木と混植すると、その葉が際立って見え、和風や自然風の植栽に向くほか、洋風庭園にも合わせやすい樹です。

樹皮は若いうちは暗い紫色ですが、後に灰褐色になります。葉は対生し、長さ3～7cm、幅4～10cmの掌状で7裂し、裂片の縁には鋸歯があります。新芽から鮮やかな紅色の葉を吹かせ葉が固まるにつれ銅葉に変化して、秋に落葉します。開花期は4～5月ごろ。

剪定時期は2月中旬～下旬。11～12月に整枝します。生長はやや早く萌芽力があり剪定に耐えますが、強く剪定すると葉枯れするので、要注意です。なるべく細い枝を残し、太い枝を抜き、まず枯れた枝を元から切る。樹勢の強い太い徒長枝、内側に伸びる枝を付け根から落とすとよい。

移植時期は2～3月中旬、11～12月に、移植は比較的容易です。

<ちょっと一言>

＊ムクロジ目カエデ科カエデ属で表記されている書籍もあります。